川湯温泉全体会議

開催日時：2024 年 8 月 20 日（火）13：30～16：30

開催場所：川湯ふるさと館

所属		氏名（以下、敬称略）	
弟子屈町	商工観光課	守屋　憲一	課長
		鶴田　裕樹	課長補佐
	建設課	廣川　直樹	課長
		下谷　敏正	係長
		板谷　欣史	
環境省	阿寒摩周国立公園管理事務所	田中　準	所長
		末廣　圭司郎	企画官
		吉武　智哉	管理官
		白出　晶太郎	管理官
北海学園大学		岡本 浩一	教授
札幌市立大学		森　朋子	准教授
街制作室		渋谷　正明	取締役
	プランニング＆マネジメント	中澤　和忠	プロデューサー
	アーキテクチャー＆デザイン	鳴海　紗恵	プランナー
	プロジェクトコーディネート	高木　千世	プランナー
オンサイト		長谷川　浩己	代表取締役
		鈴木　裕治	取締役
		本田　亮吾	
		上田　啓司	
		浜田　千種	
日本海コンサルタント	社会事業本部　計画研究室	片岸　将広	担当室長
		五島　真由美	リーダー
星野リゾート	国内企画開発グループ	石井　芳明	プロジェクトマネージャー
蘆田暢人建築設計事務所		蘆田　暢人	主宰
		近藤　太郎	
LEM 空間工房		長町　志穂	代表取締役

【１.景観ガイドラインブックの構成について】

［１）景観ガイドラインブックの内容確認］（下記項目ごとのポイントのみ記載）

［運用方法について］

・景観ルール（法令・条例ではしばれない部分）も含んでいく。
　作成したルールを住民へきちんと伝えて行くことが大切。

［景観 GL のクレジットについて］
・弟子屈町・環境省などを含めた推進協議会とする予定。

［敷地面積、建ぺい率、容積率］
規定なし（30 パーセントは×記載ミス）

［屋根形状］
傾斜パラペット＋陸屋根はいままでは認められてきたが、道路から見えないところだけ傾斜パラペットがついているのが OK になっていた。（法令違反ではない）。
道路や河川から見えるところの屋根の形状をきちんと設ける、かつ劣化しにくい素材とする。

［屋根・壁の色彩］
マンセル値など分かりやすく記載する。
自然の色、傾斜パラペット、庇、オーニングも同様の色彩とする。

［駐車場］
公共空間から見える大きな駐車場をさける。
植栽で目隠しを行い必要最低限な出入口とする。

［車庫、倉庫、垣、柵、引湯管、オイルタンク、エアコンの室外機など］
どういった目隠しがよいのか、イラストで表現する。

［接道延長］
５ｍ以下→すれ違うのに難しいため、６ｍ以下に修正する。

［屋外広告物］
電光掲示板は川湯らしくないので NG。（例）デジタルサイネージなど

［その他］
お祭りののぼりなどは可。
色彩の具体例もイラストなどで分かりやすくする。

［建物や軒先の設えについて］
過去には木製のサインを作っていくという動きもあり、現在も素敵なサインが付いているお店もある。ローカルルールにて川湯温泉独自の素敵な設えを作っていく。

［建築面積について］
（今後の課題）
・ホテルなどの公園事業については別途ルールを設ける予定。
・シミュレーションを行い、そのうえで専門家の内容をもんでいく。

［夜間照明について］
現在、専門家で中身について議論中

［２）専門家からの意見等］
［景観ＧＬの内容について］
下記のパターンを作成する。
・内容を全て網羅した完全版
・概要版
※条例や法令など様々な複雑な関わりがあるため、ローカルルールを含めて１冊共通の確認できる資料としてあった方が運用する側としてもよい。

［専門家からの意見について］
・文言だけだといかようにも捉えられるためイラストや説明を駆使してイメージを伝える
・凡例をきちんと入れるべき
・資料の色彩やデザイン自体も国立公園にふさわしいものにする
・守るべき事項と目指したい事項が混在している（ルールで縛る部分と、住民が作り上げる内容を明確にする）
・誰にどのように理解してもらうかはっきりさせながら表現方法を考えるべき
・（10 年 15 年と長い目で見た時に）誰が見ても理解できる内容とする
・付帯資料（資料編）として数値データや国立公園の推奨している資料などを付ける。言葉の定義についても資料をつけるべき。

【２.エリア交通計画について】
［１）景観ガイドラインブックの内容確認］（下記項目ごとのポイントのみ記載）

今後の方針についての議論のたたき台としての資料
・基本的な方向性について（7/23WG 意見を含めたもの）
・今後土地利用の内容を整理しながら年次設定もしていく

［現状の課題などについて］の説明
下記該当資料を貼付。

【現状・課題】

- 地元の人による路上駐車が多い、美しくない
- 来街者にとって駐車場がわかりにくい
- 観光客向けの公共交通が少ない
- JR川湯温泉駅はインバウンドが多く温泉街まで歩いて来ている（宿泊施設によっては駅まで送迎）
- レンタカーは冬の運転が怖いとの声がある
- 硫黄山まで往復5kmを歩くのは厳しいとの声がある　・・・など

［方向性について］

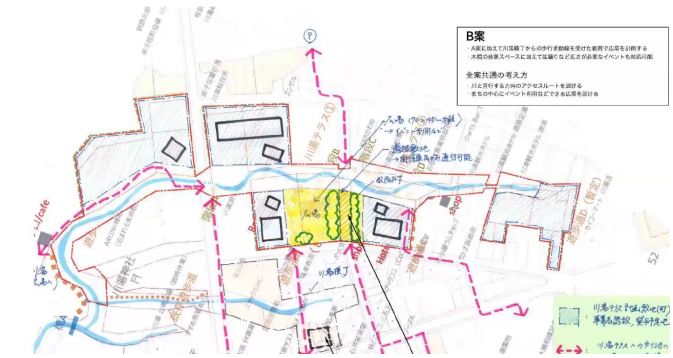
下記該当資料を貼付。

【方向性】

- 温泉街の中を人中心にしていくことは賛成
- 歩行者専用区間と歩車共存区間を分けて考えるべき
- 一方通行にして歩行空間を広くとる／季節や時間帯に応じた交通規制
- 車両動線と歩行者動線をわかりやすく示す
- まちなかの空地に駐車場＋バスターミナル＋回遊を促すモビリティを整備
- 乗り捨て可能なレンタサイクル
- 冬期の公共交通の強化
- 地域住民や商業者が停められるまちなかの駐車場の整備
- 歩行空間と目的となる場所を同時につくる　・・・など

8/6 検討会議では「B 案」が有力とはなっているが、これから更に検討する必要がある。

8/6検討会議での方向性（川湯テラス）



［考慮すべき動線について］

・つつじ原の探勝路

・アカマツの森探勝路（歩行者の動きとして）

・摩周・屈斜路トレイル（つつじが原の探勝路が含まれる）

［歩行者動線の基本的な方向性について］

・大きなトラックなどが通る道路も側帯がない

・歩車分離が難しい場合は歩車共存も考える。行政とも話し合っていく。

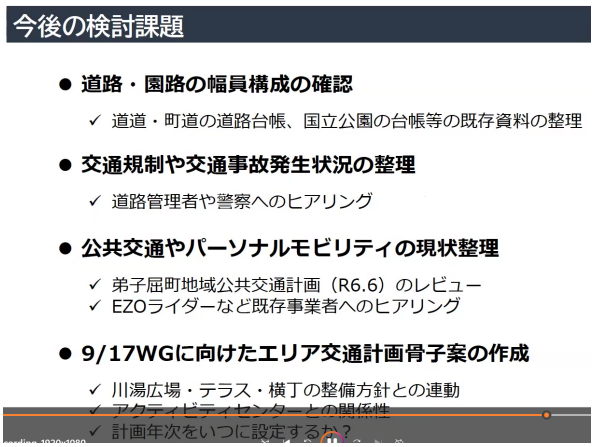
・川湯の交通面の顔になる議論（専門家、弟子屈町との議論、WG での意見などを取り入れたい）

・小さい駐車場を点在させることで路上駐車をしないようにしたい。

ライジングボラード＝許可された車は中に入れる仕組み
シェアスペース＝歩行者優先＝車は通れる。
・歩行者動線の基本的な方向性
今の幅員をどのくらいいじめられるかわからないか検討していく。
・非常に道路があれた状態になっている。
・硫黄山側に歩道はあるが、ものすごいスピードでトラックなどが横を通り過ぎていく。
モビリティ（電動キックボードなど）を検討するうえで北海道とも協議が必要。
・両側を歩ける場所、お店の前のベンチ＝おもてなしの装置。こういった内容を景観 GL で示していく。
・センターラインを消してしまい、歩道の幅を増やすことは可能。

［交通計画の手法として］
人中心の道路空間
・長門湯本温泉の狭窄部は対面通行だが、アイコンタクトで譲り合いながらすれ違っている。
例にならって、店舗の前の滞留空間として道路を使っていくのも一つの手法である。
速度を落として通ることを促す。
・東京都千代田区丸の内仲通り「Marunouchi Street Park」https://marunouchi-streetpark.com/
道路を人に開放。三菱地所の道路空間の使い方が非常に参考になる。
森の中の温泉街。道路にどう設えるべきか。どう実現していくか考えていく。

［今後の検討課題について］
下記該当資料を貼付。



［パーソナルモビリティについて］
川湯ビジターセンターでもレンタサイクルをしているが、これまでの実験でどういったことがわかってきたか。レンタサイクルなど行っている EZO ライダーさんなどにもヒアリングしていく。

［計画のタイミングについて］
例えば、長門湯本温泉の場合は 3 年間で温泉街を変えていくという明確な目標があったため、それ

に向けて道路空間をどうするか、社会実験を踏まえて進めていった。
川湯温泉の場合は…
・回遊が生まれてきたときにいかに歩きやすい空間になっているのか。
・土地利用の変化、人の流れの変化を考慮し、いつを目指すのか。
・2028 年の春（「界」OPEN に合わせるのか)、広場、テラス、横丁が出来るタイミングなのか。
⇒整備スケジュール含めて、検討していく。
・阿寒バス（旋回場）はこだわらないとのこと。
費用負担や利便性も考える必要はあるが公共交通機関も含めて考えて行く必要がある。

［駐車場について］
（専門家からの意見として）
P11 の駐車場の位置について、回遊の動線から賑わいが想像できる。そうなって来ると 2 箇所の駐車場の予定地（池田屋の近くのＰ・ビジターセンターのところのＰ）や道路のあり方（黄色い線をピンクで囲ったところ）の意味がわからない。何のためにどこにいくのか。園地側がもっと明確にした方がよいのではないか。
ミニマムにしたときに車をどこまで減らして行けるのか。具体的に示すのも今後の課題になる。

⇒公共駐車場の場所については今後調整会議でも議論していく。

（専門家からの意見として 2）
・各方面から入るので、MP 当初に話にでていたようにそれぞれの入口に駐車場があった方がよいし、空間の動線計画の視点でも考えた方がよい。
・最初はお店も少ないし、駐車場はたくさん必要ない。はじめは消防署側の駐車場に集約し川湯広場に抜けてもらうようにした方がよい。（商店街も通る）
・冬は外を歩けないくらい寒いので、狭窄部を外歩きだけではなく、車を停めつつそぞろ歩きもしつつ、というように狭窄部をうまく運用できるように考える必要がある。
・川湯ならではの四季を感じるルールづくりが出来れば特徴を出せると思う。

【３.全体を通しての専門家からの意見】

（森先生よりご意見）
外構の植栽について（道路と河川の樹木植栽の部分を分けて行くのか)。
間口が狭い箇所のセットバックが必要な道道の植樹の支援についても検討していった方がよい。
トラックなど大型車の通過交通を広域で考えたときに、川湯温泉街は通過交通を遠慮してもらうようにする仕組みづくりが出来るのではないか。
例として、このエリアに入らずとも外周（エリア外の国道）を通ってもらうなど出来るのでは。
町に入りにくくするハンプを設けるなど。毎日通るとわずらわしいとうのもあると思うため、業務用のものは遠回りしてもらう設えにする。
（ショートカットとして使われない工夫を考える）
生活動線と観光動線を駐車場含めて分けて、単なる交通ではなく点と点をどのようにつなぐかデザイン含めて考えていくべき。

［まとめ・感想］
（岡本先生より）
これまでの議論を踏まえて形にしつつ、内容を確認してブラッシュラッシュアップできるところはどこか議論の機会であった。
それぞれのコンテンツに全体としてどう考えるかきちんと伝わるか大きな視点の部分の追加と、より細かいところを丁寧に伝わるにはどうしたらよいか、これまでの検討内容をよりわかりやすく現実化しやすいよう、理想形を実態形に持って行き、且つみなさんがいかに使いやすくするか。さらなる表現等の向上が望まれている。
大枠としてこれまでの流れを集約しているが、より具体化を密度濃く見ていく必要がある。
これからもご意見などをいただきながら詰めていっていただけたらと思う。